

在宅医療の推進に向けた取組

東部厚生環境事務所・東部保健所

- 榊田卓司, 木曾正浩, 英賀谷優子, 伊藤ちか子
越智 潤, 岡野吉晴, 新田一博, 北川雅典

1 はじめに

急速な高齢化により、慢性疾患を中心とした在宅での長期療養や介護を必要とする高齢者が増加し、在宅医療・在宅での看取りのニーズも増加することが見込まれる。

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、医療、介護、予防、生活支援を切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築が求められている。

このシステムを日常生活圏域ごとに構築するには、それぞれの地域で在宅医療を担う医師をはじめ医療従事者の理解と協力が必要であると考え、今年度、尾三地域保健対策協議会に在宅医療推進会議を設置し、市町、地区医師会等関係団体と連携して在宅医療の推進に向けた取組を行ったので、この取組の概要について報告する。

2 尾三圏域の日常生活圏域の状況

(1) 日常生活圏域の状況

日常生活圏域名	人口	高齢化率	医療機関数	介護保険事業所数
三原市東部	62,905人	27.6%	病院10 診療所57 歯科診療所44	訪問介護22 訪問看護7 通所介護21 通所リハ6
三原市西部	24,934人	26.7%	病院2 診療所10 歯科診療所6	訪問介護5 訪問看護1 通所介護7 通所リハ2
三原市北部	12,059人	37.1%	病院1 診療所8 歯科診療所4	訪問介護4 訪問看護2 通所介護5 通所リハ1
尾道市北部	19,789人	30.4%	病院1 診療所12 歯科診療所5	訪問介護3 訪問看護1 通所介護7 通所リハ2
尾道市中央	22,514人	31.5%	病院4 診療所38 歯科診療所21	訪問介護8 訪問看護2 通所介護7 通所リハ3
尾道市西部	26,651人	27.4%	病院3 診療所25 歯科診療所13	訪問介護6 訪問看護1 通所介護11 通所リハ3
尾道市東部	17,593人	21.2%	病院1 診療所23 歯科診療所7	訪問介護7 訪問看護1 通所介護10 通所リハ2
尾道市向島	24,148人	32.1%	病院0 診療所15 歯科診療所7	訪問介護5 訪問看護2 通所介護6 通所リハ2
尾道市因島	23,942人	34.5%	病院2 診療所19 歯科診療所14	訪問介護7 訪問看護1 通所介護9 通所リハ3
尾道市瀬戸田	10,211人	37.4%	病院0 診療所7 歯科診療所3	訪問介護3 訪問看護0 通所介護6 通所リハ1
世 羅	17,549人	36.0%	病院1 診療所11 歯科診療所6	訪問介護5 訪問看護1 通所介護6 通所リハ1

資料：広島県地域包括ケア資源調査報告書（平成25年3月）

(2) 介護サービスの利用状況 ～日常生活圏域ごとの特徴的事項

【訪問系サービス】

- ア 訪問介護利用率は、尾道市中央、北部、西部の3つの日常生活圏域で県平均を上回っている。
- イ 訪問看護利用率は、尾道市向島、北部、中央、三原市北部、世羅町で県平均を上回っている。
- ウ 尾道市東部、因島、瀬戸田、三原市西部地区は訪問系のサービス利用率が低い傾向にある。

【通所系サービス】

- ア 通所介護利用率は、尾道市北部を除くすべての日常生活圏域で県平均を上回っている。
- イ 通所リハビリ利用率は、尾道市向島、北部、東部、因島、三原市西部、東部で県平均を上回っている。

※詳細は、別紙のとおり 出典：広島県地域包括ケア資源調査報告書(平成25年3月)

3 これまでの主な取組

【尾道市医師会】

平成6年度から包括的医療ケアシステム〔尾道方式〕に取組み、在宅主治医機能を中心とした在宅医療の地域連携、多職種協働による地域ケア体制を構築している。

また、平成23年度から尾道地域医療連携推進特区事業により、ICTを活用した地域医療・介護連携ネットワークを構築している。さらに、遠隔地画像診断等の事業が計画されている。

【因島医師会】

平成20年度からケアネット因島を設置し、因島・瀬戸田地域での保健・医療・福祉・介護の支援体制を構築している。

平成24年度から国の在宅医療連携拠点事業を活用し、因島医師会病院地域医療連携室での相談活動、退院前ケアカンファレンスの開催、社会資源マップの作成、在宅医療推進医等リーダー研修等により在宅医療を担う人材の育成に取り組んでいる。

【尾道市歯科医師会】

平成23年度から在宅歯科医療連携室整備事業を活用し、在宅歯科診療所の紹介や情報提供、訪問歯科医療用機器の貸出等により在宅歯科診療の充実を図っている。

【三原薬剤師会】

平成24年度から、在宅コーディネーターの薬剤師が、退院時カンファレンスへ参画し、在宅生活への移行、在宅生活のサポートを行っている。

【尾道薬剤師会】

平成20年度から、退院前カンファレンスへの参画等により在宅医療を推進している。また、特区事業により情報機器による服薬指導、離島への薬剤搬送等の事業が計画されている。

【公立みつぎ総合病院】

昭和49年度から、公立みつぎ総合病院を核とした地域包括ケアシステムに取組み、医療、介護、保健、福祉が継ぎ目なく連動した地域完結型のケアシステムを構築している。

【平成24年度チームケア推進モデル事業】

因島医師会(尾道市南部地域包括支援センター)、三原赤十字病院、厚生連尾道総合病院では、チームケア推進モデル事業を活用し、退院時カンファレンス、多職種連携研修会等により在宅医療を推進している。

4 平成 25 年度の取組

(1) 尾三地域保健対策協議会の取組

尾三圏域の在宅医療を推進するため、尾三地域保健対策協議会保健医療計画委員会の専門会議として在宅医療推進会議を設置し、圏域での在宅医療の状況、課題等について検討を行った。

また、在宅医療に関する地域の指導者（在宅医療推進医〔コミュニケーションリーダー〕）を日常生活圏域単位で育成するため、在宅推進医等リーダー育成研修Ⅱを開催した。

【会議の開催状況】

区分	日時	場所	内容
第 1 回	7 月 30 日 19:15～20:15	尾道庁舎 第 1 会議室	・ 育成研修Ⅱ（模擬カンファレンス） ・ 尾三圏域内の日常生活圏域の状況 ・ 在宅医療の推進に係る事業の実施状況
第 2 回	12 月 4 日 19:15～20:15	尾道庁舎 第 1 会議室	・ 育成研修Ⅱ（模擬カンファレンス）の報告 ・ 育成研修Ⅱ（訪問診療への同行訪問） ・ 在宅医療推進の取組状況、問題点、課題等
第 3 回	2 月上旬 (予定)		・ 育成研修Ⅱ（訪問診療への同行訪問）の報告 ・ 在宅医療推進に向けた来年度の計画等

【在宅推進医等リーダー育成研修Ⅱの開催状況】

日時	場所	内容
10 月 20 日 14:00～17:00	尾道庁舎 大会議室	・ 講演 演題：在宅医療推進医等リーダー育成研修Ⅱの目的と概要 講師：都道府県リーダー 岡崎 純二（因島医師会） ・ 模擬カンファレンス 症例 1 胃がん術後、多発骨転移、多発肝転移 症例 2 認知症 (参加者 75 名)
1 月中旬 (予定)	患者宅及び因 島医師会病院	・ 訪問診療への同行訪問 ・ ミーティング（訪問診療に係る留意事項等） 進行：都道府県リーダー 岡崎 純二（因島医師会）

(2) 市町・関係団体の取組

市町、関係団体においても、従来から様々な在宅医療の取組を行っているが、今年度も、新たな取組を進めている。

【三原市】

平成 25 年度地域包括ケア推進補助金及び介護給付費改善市町インセンティブ付与事業交付金を活用し、高齢者の運動機能低下の防止に向け運動機器を購入し、元気な高齢者を対象とした健康活動の充実・生きがいづくりを推進している。

【世羅町】

平成 25 年度地域包括ケア推進補助金を活用し、地域包括ケアシステムの理解と促進を図るための講演会の開催、訪問用専用車両の購入等により、一人暮らしや高齢世帯の方に対する生活支援の充実を図っている。

【三原市医師会】

平成 25 年度から在宅医療推進拠点整備事業を活用し、三原市、三原市医師会、三原赤十字病院が中心となって三原市地域包括ケア連携推進連絡会議を設立し、在宅療養への移行、在宅緩和ケア、ICT を活用した多職種連携システムの整備等在宅医療支援体制の構築に取り組んでいる。

【尾道市医師会】

平成 25 年度から在宅医療推進拠点整備事業を活用し、在宅療養への移行、在宅 NST の推進、ICT を活用した多職種連携システムの整備等在宅医療支援体制の充実やネットワークの構築に取り組んでいる。

【因島医師会（尾道市南部地域包括支援センター）】

平成 25 年度チームケア推進モデル事業を活用し、退院時モニタリングカンファレンスや在宅ケアカンファレンス、多職種連携推進研修会等を行い、地域の医療、介護、福祉の各事業所間の連携体制の充実を図るとともに、瀬戸田地域とも連携した在宅医療ネットワークの構築に取り組んでいる。

【三原市歯科医師会】

在宅歯科推進委員会を設置し、サンシープラザに窓口を設け、在宅歯科診療の要望を受け付け、在宅診療を実施している歯科診療所に情報提供を行っている。

【三原薬剤師会】

平成 25 年度に在宅促進委員会を設置し、薬剤師の在宅活動のチラシの作成・配布、在宅医療に関する勉強会等により在宅活動を推進するとともに、三原市医師会病院、三原赤十字病院が行う退院時カンファレンスに、在宅受入薬局又は在宅コーディネーターが参画し、入院患者の在宅療養への移行を支援している。また、医療材料の小分け販売を行い、在宅医療を行う診療所の支援を行っている。

【尾道薬剤師会】

平成 25 年度に薬剤師在宅業務に関するアンケートを行うとともに、サポート薬局制度の普及に努めている。

【おのみち主任ケアマネージャーの会】

平成25年度に尾道市内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と医療機関の地域医療連携室の看護師と交流研修会等を行い、顔の見える連携と資質の向上を図っている。

5 課題等

(1) 在宅医療を担う医師の参入推進

在宅医療を提供するには 24 時間 365 日対応する必要があるなど、医師の負担が大きいため、開業医が在宅医療に参入しがたい状況にあり、応援団としての多職種協働チームによる連携体制の構築等により、在宅医療に取り組む医師の参入を推進する必要がある。

(2) 医療と介護の連携推進

ア 尾道市内（旧市街、御調地区、因島地区）では、医師、看護師、介護支援専門員、訪問介護員等多職種によるカンファレンスが行われているが、尾三圏域内では多職種連携による在宅医療が進んでいない地域もあり、引き続き、在宅医療の推進に向けた取組を行う必要がある。

イ 尾道市内では、退院時に医師、看護師、介護支援専門員、訪問介護員等と可能な限りカンファレンスを行っているが、カンファレンスの結果が十分反映されていない状況にあり、医療と介護

を提供する主体が的確に患者の状態を把握するため、ICTを活用した医療介護情報の共有化を図るとともに、カンファレンスの精度を上げていく必要がある。

ウ 医療と介護の連携の中心となるのは介護支援専門員と看護師であるが、介護職と医療職間の相互理解が不十分であり、普段から連携を密にし、顔の見える関係づくりを推進する必要がある。

エ 口腔ケアや服薬管理が必要な場合、歯科医師、薬剤師の協力が必要であるが、ケアカンファレンスへ参加する歯科医師、薬剤師は限られており、歯科医師、薬剤師の在宅医療への理解と参画を推進する必要がある。また、在宅でのリハビリテーションも必要であり、理学療法士等の参画を推進する必要がある。

(3) 在宅療養を支える訪問看護の充実

広島県地域包括ケア資源調査報告書（平成 25 年 3 月）によると全ての訪問看護事業所で訪問看護サービスのターミナルケア加算が算定されていない状況であり、在宅での看取りを行うための訪問看護体制を整備する必要がある。

(4) 在宅医療に関する住民への普及啓発

患者や家族が在宅医療に対する理解や知識不足から療養生活に対する不安や負担を感じており、住民に在宅医療やそれに従事する職種の機能や役割等在宅医療に関する情報提供を行う必要がある。

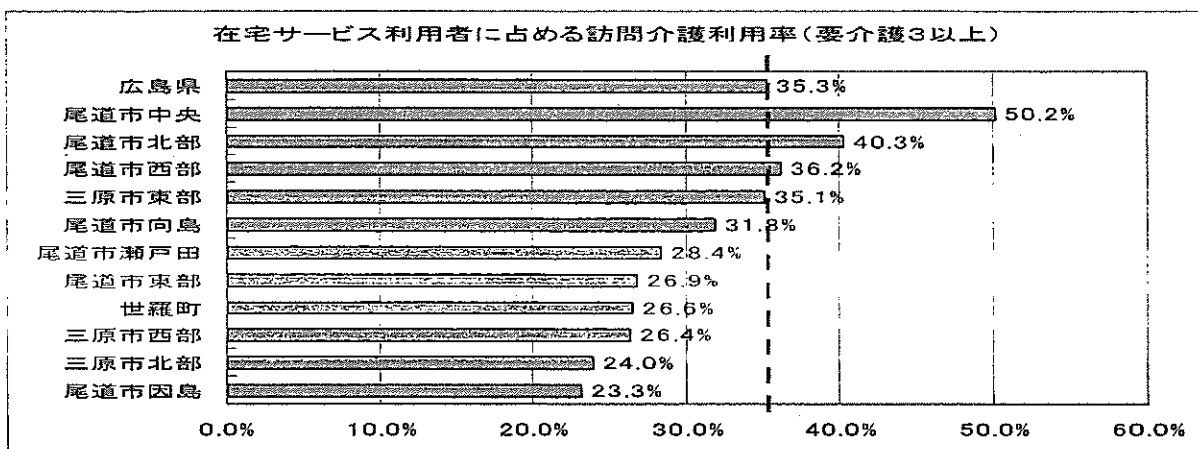
6 おわりに

在宅医療推進会議で、在宅医療の取組状況や課題解決に向けての対応策を検討するとともに、在宅医療を推進するリーダーの育成等必要な事業を行い、在宅医療の推進に向けて市町、関係団体と連携して取り組むたいと考えている。

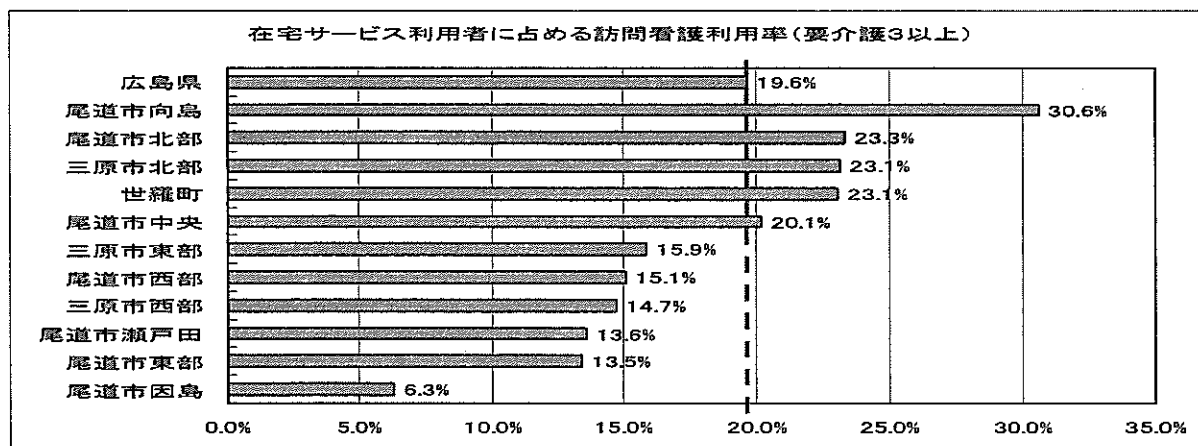
また、既に市町、関係団体では在宅医療の推進に向けた取組を行っており、それぞれの取組を支援するとともに、市町、関係団体等と連携して在宅医療を支える体制づくりや住民への在宅医療に関する情報提供を行いたいと考えている。

【別紙】介護サービスの利用状況（広島県地域包括ケア資源調査報告書（平成 25 年 3 月））

○在宅サービス利用者に占める訪問介護利用率

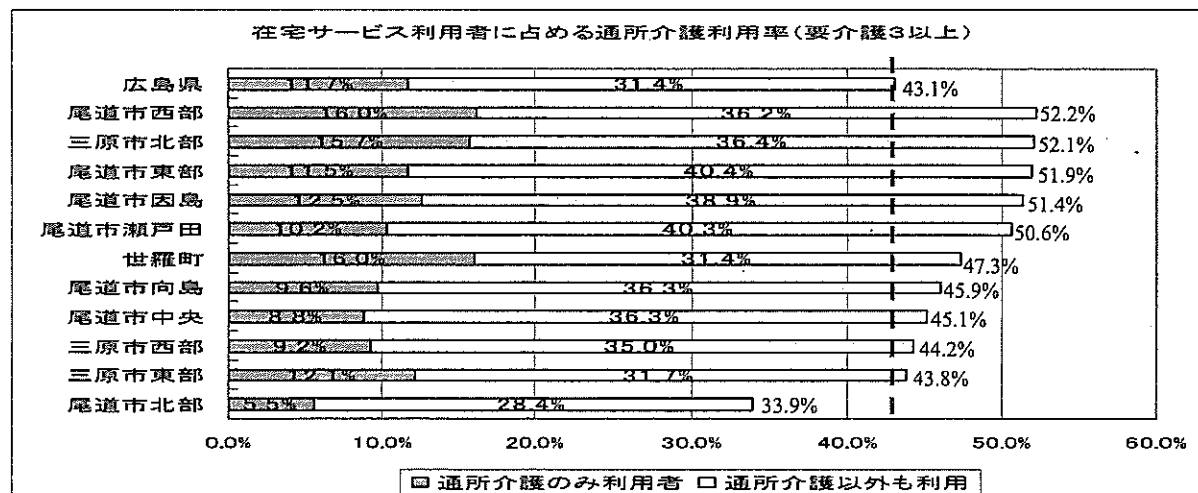


○在宅サービス利用者に占める訪問看護利用率

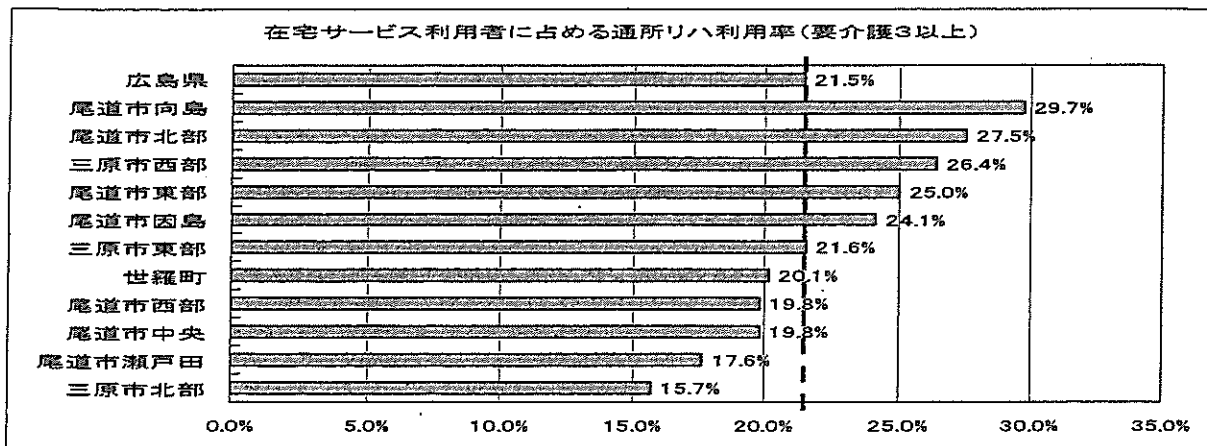


- ・「訪問介護利用率」は、尾道市中央、北部、西部の3つの日常生活圏域で県平均を上回っている。
- ・「訪問看護利用率」は、尾道市向島、北部、中央、三原市北部、世羅町で県平均を上回っている。
- ・尾道市東部、因島、瀬戸田、三原市西部地区は訪問系のサービス利用率が低い傾向にある。

○在宅サービス利用者に占める通所介護利用率



○在宅サービス利用者に占める通所リハ利用率



- ・「通所介護利用率」は、尾道市北部を除くすべての日常生活圏域で県平均を上回っている。
- ・「通所リハ利用率」は、尾道市向島、北部、東部、因島、三原市西部、東部で県平均を上回っている。

